

1 テーマ

発達支援学級の子供たちに有効なICTの活用について

2 テーマ設定の理由または、課題（発達支援学級・知的・在籍3名）

5年生の2人は、交流学級でICTを活用した学習をしており、技能を習得しつつある。一方、支援級では子供の実態が異なり、互いの意見を交換し合ったり深め合ったりする授業がなかなかできず、ICTを活用すると効率が悪かったり、有効な活用場面が見つからなかったりで、ほとんど利用していないという状態である。それに伴って担任のICT活用の能力が全く向上しないという悪循環が生じている。有効な活用とまでは行かずとも、少しでも子供の技能が向上したり、学習への意欲につながったりすることを目指したいと思った。

「〇〇さん、やり方を教えて。」と子供に聞くことも・・・。

3 実践内容

(1) タイピングができるようになるために(対象児童:2年生)

今後本児にとっても、PCの利用が不可欠であることや、ローマ字入力ができるようになると、効率よくPCの利用ができると考え、「キーボード島」を使って練習を始めた。(交流学級の子供たちがタイピングの練習を始めたことをきっかけに。)まだローマ字の学習はしていないことや、本児の学習能力を考えたときに、身に付けることができるかどうか懸念されたが、スモールステップで練習すれば、少しずつではあるが成果が上がるのが分かった。

<取り組みの様子>

- ① ア行のみの練習の繰り返しをするとともに、両手の指を使うことに慣れる練習をした。
- ② 「あお・いえ・うえ」等、ア行のみで、できている言葉を入力する練習をした。
- ③ ア行が完全にできるようになったら、カ行の練習というようにスモールステップで練習を続けていく予定。

<児童の様子>

- ・「キーボード島」のキーは大文字、児童用タブレットのキーは小文字という違いがあるが、抵抗なくキーを打つことができた。
- ・特に小指や薬指は動かしにくさがあったが、根気よく練習することで次第に慣れてきた。
- ・多少の指使いの間違いはあるが、両手の指を使って、「あお・いえ・うえ・あか・いか・かい・かお」等の言葉を入力できるようになった。

(2) 文を読んで理解する学習の意欲を高めるために(対象児童:2年生)

文を読んで理解することの楽しさや大切さを味わわせることをねらいとして、実践をした。

○問題文の例 ストリームで児童のタブレットに送付
・あかいのはどっち? いちご ゆき
・〇〇さんがすきなのはどっち? ぶどう りんご

○児童は手書き入力で答えを入力し、教師のタブレットに返信。○○

プリントより楽しい!

4 成果と課題

- 教師自身のICTの活用能力は進歩しなかったが、児童の初歩的な操作は少し向上した。
- 休校のときにリモートで授業ができるよう、保護者と連絡を取り合い、実施できる環境を整えていきたい。